



こやすがい

常陸太田市立太田小学校

第 2 号

平成 31 年 4 月 26 日 発行

～ 自分で考え、判断し、行動できる児童の育成 ～

— 「知識」から「知恵」への変換 —

⋮

(一部抜粋)

お子さんとの対話

今年のゴールデン・ウィークは例年よりも長くなります。

この機会にお子さんと膝を交えて話す機会を作ってみてはいかがでしょうか。親に認められている子は自分に自信をもちます。お子さんのよさを見つけて、声に出して伝えてみると、お子さんのとびきりの笑顔や良心が育ちます。

「ほめる」こと、「一緒に喜ぶ」ことは、子どもの心の安定や意欲、そして善悪の基準を身に付けていくために、とても重要です。



お子さんのことを喜べますか？

check!

子どものよいところをほめたり、達成できたことを一緒に喜んでいたりしていますか

「認める」とは、子どもがしていること、したことを「よくやった、それでいい」と肯定的に見ることです。

親に認められている子は自分に自信をもち、何事にも意欲的に取り組みます。また、親が考えている善悪の基準を分かっているので良心が育ちます。

point1

どんな子にも足りないところがありますが、それ以上によいところをいっぱいもっています。お子さんのよいところに目を向け、認めてあげましょう。

point2

認めたことを肯定的な言葉や、喜びの言葉で伝えてください。また、うなずいたり、ほほえんだりなどの表情やジェスチャーで認めていることを伝えましょう。

「しかる」と「おこる」は違います。感情的ではなく理性的に。自分のためではなく相手のために。過去ではなく将来を見据えて。感情に流されず試行錯誤をしながらしかることが大切です。



しかるって むずかしいですか？

check!

子どもが悪いことをしたときには、してはいけない理由が分かるように話していますか。

「しかる」とは、自分に危ないことはしない、人がいやがることはしない、社会に許されないことはしない、ということをお教えることです。

しかられても子どもは親を嫌ったりはしません。しかられたとき、子どもは、自分の行いを見つめ直し、自分自身で考えていくようになります。

point1

悪いことは悪いと教えることは親の義務であり、責任でもあります。戸惑うことなく、毅然としてしかりましょう。

point2

してはいけない行為だけを、「それはいけない」と短い言葉でしかってください。そして、その理由をわからせてください。体罰(叩く、激しい言葉で叱責する)は、絶対にしないようにしましょう。

〈参考〉「茨城県教育委員会 家庭教育ブック」より